

### 地球温暖化問題は経済の生活習慣病

近年夏が暑い。特に、大手町のビル街に住み着いていると、ヒートアイランド（熱の島）現象とやらで、ビルの外はとても生活できないと思われる暑さ。人々は、できるだけ速やかにエアコンの効いたビル内に逃げ込む。考えて見れば、エアコンは一年中フル稼働。ビルは、存在するだけで巨大な熱風を四六時中吐き出している。地球温暖化現象は、ここでは特異な地点として、肌で感じられる。

「地球温暖化問題」が、1997年の京都議定書合意をきっかけに、環境問題のなかでも特に大きく脚光を浴びるようになった。ふりかえれば、地球環境問題が大きく取り上げられるようになったのは、1972年の国連人間環境会議（ストックホルム会議）からであった。「かけがえのない地球」「宇宙船地球号」という考え方が提出され、新鮮だった。1992年には、大規模な国連環境開発会議（地球サミット）が開催された。

それにしても、環境問題を克服するのは難しい。環境問題は、外部不経済と言われる。その外部不経済を経済のなかに入れて考えようとする途端に様々なコストに突き当たる。石油・石炭等の化石燃料を燃やしつづけ二酸化炭素を排出しつづけた産業革命以来の経済の負の遺産は巨大すぎる。二酸化炭素の排出は、いまや経済の生活習慣病の様相を呈している。

環境の死は緩慢なる自殺に似ている。積極的意志なき自殺である。例えば、タバコ、アルコール、飲食過多、薬物摂取、等々のあらゆる不節制、それに加うるに慢性的運動不足。それでも、なお健康で長生きする人はたまに

はいる。しかし、確率的には必ず健康を蝕む。環境の汚染も同じだ。産業廃棄物、一般廃棄物、排気ガス等の大気汚染物質、地球オゾン層を破壊するフロン、そして二酸化炭素等の地球温暖化ガス。

環境問題は、環境を決定的に害したとき地球がどうなるか、人類がどうなるかをいかにヴィヴィッドに考えられるかというイマジネーションの問題だと思う。将来に対するイマジネーションで現在の欲望を律する。人間だけに可能な知恵のありかたである。核戦争の恐怖を超える知恵でもある。

研究の具体的内容としては、①地球温暖化問題、温暖化ガスとは何か、②森林の温暖化ガス吸収機能の実態把握、③吸収機能の経済的評価の考え方等となる。また、それらの環境問題を二酸化炭素を吸収する存在として、その役割を京都議定書の中でも非常に高く評価・期待されている森林・林業問題からとらえることとなる。

環境問題は、経済問題そのものであり、そのコスト負担も含めて国民的大議論が必要である。特に、現在大きな問題になっている地球温暖化ガスは、京都メカニズムの温暖化ガス排出権取引の問題として、森林の持つ吸収機能を経済的に評価し、森林維持にかかるコストを社会全体がどう負担するかの国民的議論と決断の必要性を促す。人類のイマジネーションの知恵が現実の欲望に負けないように。「人類は賢いのだ」というメッセージを我々はこの「かけがえのない地球」に伝えなければならないだろう。

（秋山孝臣）